

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K01983

研究課題名（和文）美容を目的とする医療の国際比較--権力関係と親密性

研究課題名（英文）The international comparison of medicines for cosmetic purposes: power relations and intimacy

研究代表者

谷本 奈穂 (Tanimoto, Naho)

関西大学・総合情報学部・教授

研究者番号：90351494

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、医療化が進展する社会において、美容を目的とした医療（美容外科手術、およびメスを使わない美容医療）の実態を調査したものである。方法は、アンケート調査、インタビュー調査、メディアの内容分析（テキストマイニング）、文献調査を組み合わせ、多角的な混合研究方法を用いた。その結果、クライアントの内面だけでなく、クライアント同士の間関係、医者とクライアントの関係、医者同士の関係をも明らかにし、美容目的の医療の社会的意味とそのメカニズムをも明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、第一に、社会学をはじめこれまで看過されてきた美容整形という社会的な事柄を明らかにし、日本における美容の医療に対する希少な実証・調査研究であることだ。第二に、社会学のみならず、医学、情報学、心理学、哲学などとも連携し、学際的な研究であることも挙げられる。美容整形をめぐって、単純な批判論に陥ることなく、社会における「人々の内面」「人々の関係」および「社会的要因」を明らかにした数少ない多角的・包括的な研究であるといえる。

研究成果の概要（英文）：This study investigated the reality of medical treatment for cosmetic purposes (cosmetic surgery and non-scalpel cosmetic treatment) in an increasingly medicalized society. The method used was a multifaceted mixed research method, combining questionnaires, interviews, media content analysis (text mining), and a research book survey. As a result, not only the client's motives, but also the relationships among clients, between doctors and clients, and between doctors were clarified, as well as the social meaning of medical treatment for cosmetic purposes and its mechanisms.

研究分野：社会学

キーワード：美容 整形 身体 関係 医療化

1. 研究開始当初の背景

近年、従来病気とは認められなかった事柄が医療機関で扱われるようになった。例えば、かつて出産の多くは自宅で行われてきたが、今や大多数は病院で行われている。リスクの低下というメリットとともに、身体に関する自律性の喪失といったデメリットが指摘されている。非医療的問題が医療問題として定義され処理されることを「医療化」というが I.イリイチ (1975 = 1989)「医療化」が著しく進展した箇所に美容分野を挙げることができる。

メスをともなう美容外科手術の普及はもちろんのこと、「美容医療」と称するメスを使わない医療的措置(レーザー、注射、投薬などを使用する)が登場してからは、施術数は増加していると言われていたが、この分野の研究は立ちおくれが著しく、研究開始当初は、全国美容外科クリニックや関連学会でも美容医療を受けた人数すら、公的には分かっていなかった(現在では不完全ながら調査されるようになっていく)。美容医療に対する世間に流布するイメージだけはあるが、実際の研究による解明は少なかったのである。

だが人々の美容への欲望は肥大していた。申請時より以前の筆者による調査(2013年、20~69才男女 2060人)では、美容整形・美容医療を受けたいと思う人は 20.9%おり、女性だけのデータにしぼると 30.8%にもものぼった。

美容整形に関する社会的関心の高まりに反して、それに関する社会学的な研究が少ない状況を鑑みて、調査・分析が必要だと思われた。

2. 研究の目的

そもそも社会が医療による美容を目指した身体加工をどう受け止め、どこまで承認すべきなのかという問いに答える必要があった。そこでまず、本研究の目的は、実際に、人々が美容医療に向かう要因は何であり、逆に抑止力になる要因は何なのかを明らかにすることに定めた。

言い換えれば、それまで人々が美容を求めるのは一般的に「美の神話」に踊らされているからだと言われてきたが、それが本当なのかをどうかを確認すること、そして人々が何によって美容医療を受けようとするのかを明らかにすること、また何によって受けないのかも明らかにすることを目指したのである。それらを明らかにすることを通じて、美容の名の下で医療化がますます進展する時代に、私たちは自身の身体をどこまで医療にあずけることができるかという問題を考える一助にしようとした。

上記の問いは今まで重視されてこなかったが、人々のアイデンティティとかかわり、医療の政治にかかわり、医師とクライアントとの権力関係にかかわり、社会における老いへの認識にかかわる重要な問いである。

3. 研究の方法

本研究は、まずは実証的な調査研究であることを目指した。先に述べたように、美容医療に対する世間に流布するイメージはあるものの、実際の調査データが少なかったからである。

実証性を担保するために、多角的な研究手法を組み合わせた混合研究法を用いた。具体的には、文献による先行研究の整理、アンケート調査による量的調査、インタビュー調査による質的調査、メディアの内容分析(テキストマイニング)を結びつけながら、研究を行なっ

たのである。

4 . 研究成果

多くの調査と分析を通して次のような知見を得た。

まず、外見に課される差別・権力性・ジェンダー差を指摘する先行研究を精査し、目指すべき外見の基準が社会によって構築された一律なものであること、その基準が男性よりも女性が押し付けられているとの指摘があることを確認した。

しかしながら、実際には「劣等感を克服したい」、「異性に好かれたい」という動機とは異なる「自己満足」という動機が主流であることを発見した。そして、本人たちが口にする理由とは別に、「美容整形を希望する意識を規定する要因」を探ると、「自己満足」という理由の中には、同時に同性・異性に評価されたい気持ちも組み込まれており、純粋な「自己満足」と「他者からの評価」の二重性があることを明らかにした。

また、自己満足という動機を駆動させるには、「モノ」「技術」「テクノロジー」が大きな役割を果たしていることを指摘した。具体的にはアイシャドウを各色塗りたいがために二重まぶたに変える例、加工された写真を見てその顔に自らを近づけたくなった例、アイプチ（まぶたを一時的に二重にするのり）の使用をきっかけに二重手術へ進んだ例などがある。

さらに研究を進めて、「個人のモチベーション」（＝劣等感、異性に好かれたい、自己満足）や、「社会的影響」（＝押し付けられた基準）だけではない、第三の駆動要因として「日々の（女性同士の）コミュニケーション」があることを見出した。美容整形を受ける女性は（受けない女性よりも）「同性友人」「母」「姉妹」の影響を受けて、整形へ踏み出すことを発見したのである。しかもそのコミュニケーションは、競争的な（＝相手より卓越化を目指す）ものではなく、親愛的な（＝相手に良いものを勧める支え合う）ものであった。

最後に、この女性同士のコミュニケーションは、対面での関係に見られるだけでなく、近年はウェブでも見られることも発見した。Twitter や Instagram などを通じて、美容整形の情報を交換するだけでなく、「肯定的なつながり」を作ろうとする傾向が見られた。

以上の、多くの知見に関して著書、論文、発表を行なった。直接的・間接的に本科研の影響を受けた業績としては、著書7冊、論文5本、学会発表などが7件ある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

| | |
|----------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名 谷本奈穂 | 4. 巻 第49巻第10号 |
| 2. 論文標題 ロマンティックラブ・イデオロギーというゾンビ | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 現代思想 | 6. 最初と最後の頁 101-110 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|----------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名 谷本奈穂 | 4. 巻 2020年3月臨時増刊号 |
| 2. 論文標題 調査に見る美容整形の諸相 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 現代思想 | 6. 最初と最後の頁 309-318 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|----------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 谷本奈穂 | 4. 巻 223号 |
| 2. 論文標題 社会の性愛観・恋愛観はどう変化してきたか | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 こころの科学 | 6. 最初と最後の頁 28-33 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|----------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 谷本奈穂 | 4. 巻 670号 |
| 2. 論文標題 美容整形の現在 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 大阪保健医雑誌 | 6. 最初と最後の頁 12-15 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|----------------------------------------|-------------------------|
| 1. 著者名 辻泉・谷本奈穂・工藤保則 | 4. 巻 Vol173, No.4 |
| 2. 論文標題 「文化社会学的想像力」宣言 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 社会学評論 | 6. 最初と最後の頁 399 - 417 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

| |
|----------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 Naho Tanimoto |
| 2. 発表標題 Cosmetic Surgery in Contemporary Japan |
| 3. 学会等名 University of Melbourne, Japanese Studies Program Seminar |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 Naho Tanimoto |
| 2. 発表標題 An international comparison of medicines for cosmetic purposes: power relations and intimacy' |
| 3. 学会等名 University of Melbourne, The program Seminar, Japanese Studies at the Asia Institute |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 谷本奈穂 |
| 2. 発表標題 日本における若年層の美容整形 |
| 3. 学会等名 ポスト時代における日本研究と日本社会 (2020-2022) (第三次年度ソウル大日本研究所国際学術シンポジウム 2000年以後の日本社会と若者を考える) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|----------------------------|
| 1. 発表者名 谷本奈穂 |
| 2. 発表標題 美容をめぐるコミュニケーション |
| 3. 学会等名 第95回日本社会学会大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 Naho Tanimoto |
| 2. 発表標題 A bit about cosmetic surgery |
| 3. 学会等名 Workshop , Affect, Body and Publicness: Japan Today, Johann Wolfgang Goethe-University Frankfurt am Main |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名 Naho Tanimoto |
| 2. 発表標題 Women in (Social) Sciences: Diversity Brings Creativity, Experiences of Members of the Cercle de la FFJ |
| 3. 学会等名 3rd Meeting of the Cercle de la FFJ |
| 4. 発表年 2022年 |

〔図書〕 計7件

| | |
|--------------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 谷本奈穂（福間良明編） | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 みずき書林 | 5. 総ページ数 638 |
| 3. 書名 『昭和五〇年代論---「戦後の終わり」と「終わらない戦後」の交錯』 | |

| | |
|--------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 谷本奈穂 (石田佐恵子他編) | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 世界思想社 | 5. 総ページ数 212 |
| 3. 書名 基礎ゼミ メディアスタディーズ | |

| | |
|-------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 谷本奈穂 (小林盾編) | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 東京大学出版会 | 5. 総ページ数 242 |
| 3. 書名 嗜好品の社会学--統計とインタビューからのアプローチ | |

| | |
|-----------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 谷本奈穂 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 花伝社 | 5. 総ページ数 256 |
| 3. 書名 美容整形というコミュニケーション 社会規範と自己満足を超えて | |

| | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 西山哲郎・谷本奈穂 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 風塵社 | 5. 総ページ数 256 |
| 3. 書名 身体化するメディア / メディア化する身体 | |

| | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 谷本奈穂（小林盾・川端健嗣編） | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 新曜社 | 5. 総ページ数 282 |
| 3. 書名 変貌する恋愛と結婚 データで読む平成 | |

| | |
|--------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 谷本奈穂（友枝敏雄他編） | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 みらい | 5. 総ページ数 224 |
| 3. 書名 社会学で描く現代社会のスケッチ | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|